

主審と第2審判のとりポジション

図1 キックオフー1

(注) 図では、R：主審、2R：第2審判、3R：第3審判、TK：タイムキーパーを示す

- ① ベンチ側の主審・第2審判はハーフウェーラインからキックオフを行うチーム側に1m離れたところに位置し、キックオフが正しく行われるかどうかを監視する。
 - ・ボールが明らかに移動したか
 - ・キッカーを除く、キックオフを行うチームの競技者が、ボールがインプレーとなるまで、自分のハーフ内にとどまっているか
 - ・キックオフを行うチームの相手競技者が、ボールがインプレーとなるまで、自分のハーフ内にとどまっているか、また、センターサークル内に入らないかキックオフ後は、その後の展開を監視できるように位置する。
- ② もう一方の主審・第2審判は、キックオフを前方から監視する。また、キックオフ後は、その後の展開を監視できるように位置する。

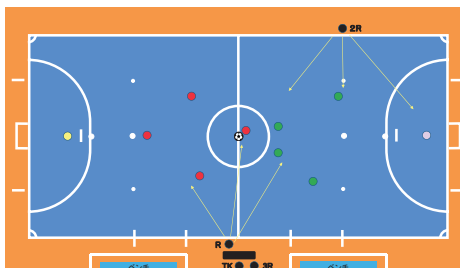


図2 キックオフー2

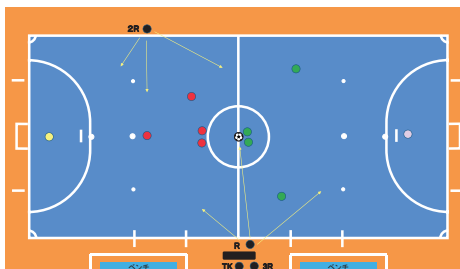


図3 キックインー1

- ① キックインが行われるサイドの主審・第2審判がボールの後方、反対サイドの主審・第2審判が前方に位置する。
- ② キックが行われるサイドの主審・第2審判は、反対サイドの審判員を視野に入れつつ、キックイン、キックインを行う競技者と次に展開される地域を後方から監視する。反対サイドの主審・第2審判は逆側の審判を視野に入れつつ、次に展開される地域を前方から監視する。



図4 キックインー2

- ① キックインが行われるサイドの主審・第2審判がボールの後方、反対サイドの主審・第2審判が前方に位置する。
- ② キックインが行われるサイドの主審・第2審判は、反対サイドの主審・第2審判を視野に入れつつ、キックイン、キックインを行う競技者と次に展開される地域を後方から監視する。反対サイドの主審・第2審判は逆側の主審・第2審判を視野に入れつつ、次に展開される地域を前方から監視する。

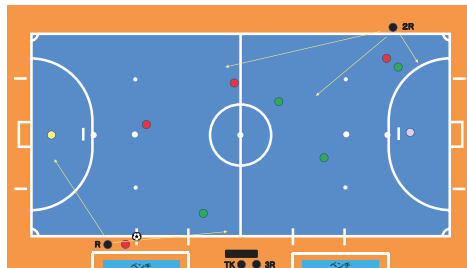


図5 キックインー3

攻撃側チームのキックインがコーナークの近くで行われるとき、キックインが行われる場所に近い方の主審・第2審判はその場所から約5mの距離を保つ。この位置から、キックインが規定の進め方に従って行われていることや、守備側競技者がボールから少なくとも5m離れているかどうか確認する。キックインが行われる場所から離れている方の主審・第2審判は、エンドラインの延長線上でコーナークの後方に位置する。この位置から、ボールや競技者の行動を監視する。

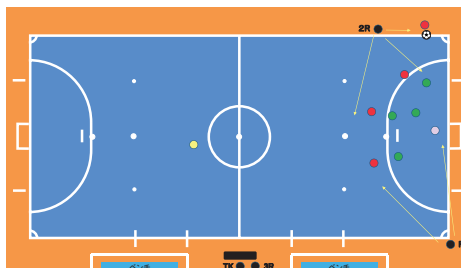


図6 ゴールクリアランスー1

- ① ゴールクリアランスが行われるサイドの主審・第2審判がエリアの近くでゴールキーパーの動きに合わせて位置し、ゴールクリアランスが正しく行われるかどうか、またボールを受ける競技者やマークする相手競技者を監視する。
 - ・ボールが投げるまたはリリースされて明らかに動いたか
 - ・ボールがインプレーになるまで相手競技者がエリアの外に位置していたか
 - ・4秒以内にクリアされたか
- ② 反対サイドの主審・第2審判は前方に位置し、次の展開などを監視する。

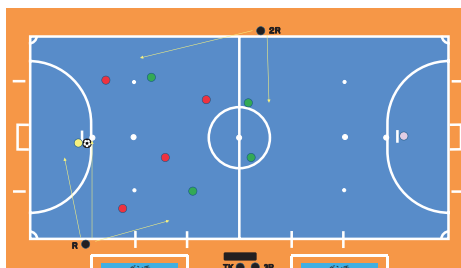


図7 ゴールクリアランスー2

- ① ゴールクリアランスが行われるサイドの主審・第2審判がエリアの近くでゴールキーパーの動きに合わせて位置し、ゴールクリアランスが正しく行われるかどうか、またボールを受ける競技者やマークする相手競技者を監視する。
- ② 反対側の主審・第2審判は前方に位置し、次の展開などを監視する。特にクリアするボールを前方の味方競技者にフィードする場合などには、その攻撃側競技者とそれをマークする相手競技者の競り合いなどに注意する。

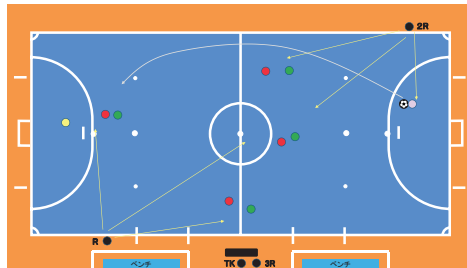


図8 コーナーキック

- ① コーナーキックが行われるサイドの主審・第2審判がコーナーから離れて位置しコーナーキックが正しく行われるかどうか、またボールを受ける競技者やマークする相手競技者を監視する。
 - ・ボールが正しくコーナーエリア内に置かれているか
 - ・ボールがインプレーになるまで相手競技者がボールから5m以内に入らなかったか
 - ・4秒以内にキックされたか
 ボールがゴールの方向に移動した場合、ボールがゴールに入るかどうか監視する。
- ② 反対側の主審・第2審判は、エンドラインのところに位置しエンドライン、ゴールおよび次の展開などを監視する。

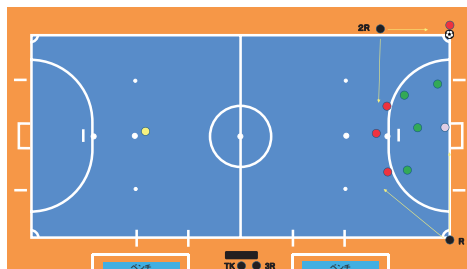


図9 ボールがインプレー中－1

- ① 一方の主審・第2審判がプレーと次の争点となる地点の後方に位置して、これらを監視する。
- ② 反対側の主審・第2審判は、プレーと次の争点となる地点を前方から監視する。
- ③ 主審・第2審判は、正しく監視を行うために必要であれば、積極的にボールの近くに寄る。その場合、もう一方の主審・第2審判は、対角線の方法を変えるなどして、角度をもってより良い監視ができる位置に移動しなければならない。そのために、主審・第2審判は、常にアイコンタクトを取りつつ、お互いの位置も確認しておく。

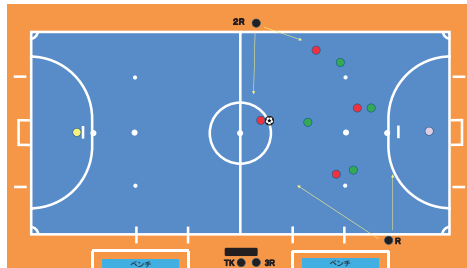


図10 ボールがインプレー中－2

- ① 一方の主審・第2審判がプレーと次の争点となる地点の後方に位置して、これらを監視する。
- ② 反対側の主審・第2審判は、プレーと次の争点となる地点を前方から監視する。自分のハーフから相手チームのハーフ奥深くに位置する味方攻撃側競技者にボールがフィードされる状況などにおいては、その攻撃側競技者とマークする相手競技者の競り合いなどに注意する。

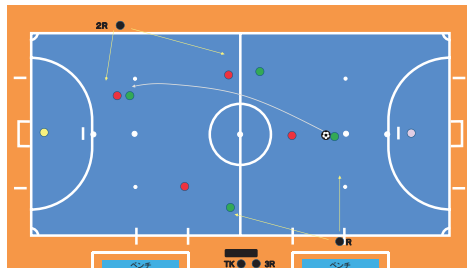


図11 フリーキック

- ① 反則の地点に近い主審・第2審判がボールの後方に、反対サイドの主審・第2審判がボールの前方に位置する。
- ② 反則の地点に近い主審・第2審判は、反対側に位置する主審・第2審判を視野に入れつつ、フリーキック、フリーキックを行う競技者と次にプレーが展開される地域を後方から監視する。反対側の主審・第2審判は、反則の地点に近い主審・第2審判を視野にいれつつ、次にプレーが展開される地域を前方から監視する。

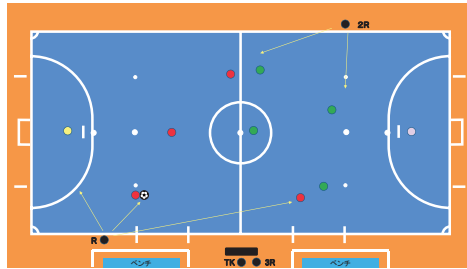


図12 ゴール前のフリーキック

- ① 反則を確認し笛を吹いてプレーを止めた主審・第2審判が、フリーキックが即座に行われないと判断した場合、ボールの近くに寄ってフリーキックのポイントを確定する。また、守備側競技者に対してボールに近づかないように注意を促すと共に攻撃側競技者が合図をするまでプレーを再開しないことを確実にする。
- ② もう一方の主審・第2審判は、エンドラインやその他の競技者を後方から監視する。
- ③ ボールに近い側の主審・第2審判が笛を吹いてプレーを再開する。

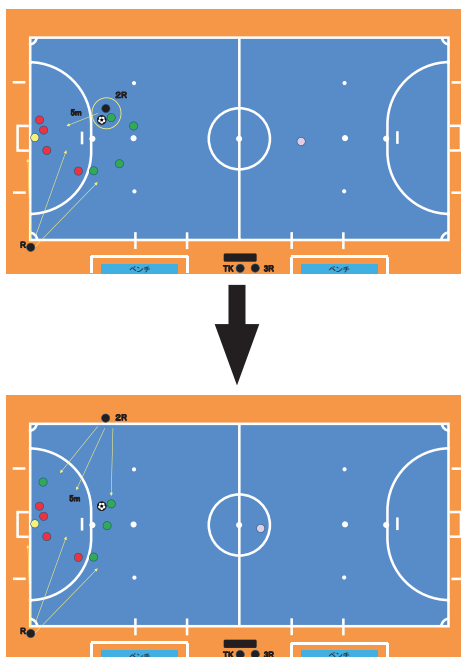


図13 10mマークからのDFKSAF

- ① 主審・第2審判が反則を確認し、笛を吹いてプレーを止める。
- ② 主審・第2審判は、反則の場所により10mマークを示す。また、フリーキックを行うチームに反則の場所からけるのか10mマークからけるのかを聞く。
- ③ 主審・第2審判は、キッカーを確認すると共にその他の競技者がボールから後方かつ少なくとも5m離す。
- ④ 主審・第2審判は、プレーの邪魔にならないようタッチラインの外側に位置し、10mマークから少なくとも5m離れる距離を示すマークに合わせて位置し、DFKSAFを横から監視する。また、ボールがゴールキーパーやゴールポストなどに当たって戻ってきたときの逆襲にも備える。
- ⑤ もう一方の主審・第2審判は、エンドラインとペナルティーエリアの交点のところに位置し、ゴールを監視する。

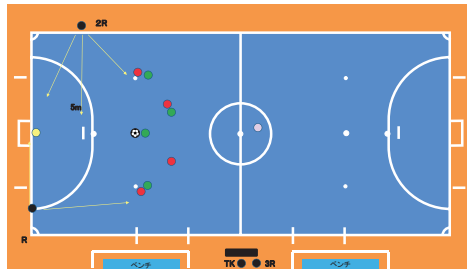


図14 ペナルティーキック

- ① 主審・第2審判が反則を確認し笛を吹いてプレーを止め、ペナルティーマークを示す。
- ② 主審・第2審判は、キッカーを確認すると共にその他の競技者をペナルティーマークから後方かつ少なくとも5m離す。
- ③ 主審・第2審判は、ゴールキーパーをゴールライン上に位置させると共にペナルティーキックをコントロールする。
- ④ 主審・第2審判は、プレーの邪魔にならないようボールから約5mのところのところに位置し、ペナルティーキックを横から監視する。
- ⑤ もう一方の主審・第2審判は、エンドラインとペナルティーエリアの交点に位置し、ゴールとゴールキーパーを監視する。

